

キャラクター名  
遠月 彼方 (とおつきかなた)

プレイヤー名

シンドローム	バロール バロール	ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	大学生
オプション		年齢	19	性別	女性
覚醒	感染	衝動	妄想	初期侵食率	28 %
出自	父親 (母親) 不在	経験	心の壁	邂逅	同志

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	0	0	1			1	行動値	9
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	9
精神	4	1	0			5	戦闘移動	14
社会	2	0	2			4	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	3		交渉	1	
回避			知覚	1		意志	3		調達	6	
運転:			芸術:			知識: 心理	4		情報: UGN	4	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
特殊プラスチックシールド	白兵	1r-2	4	1		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
----	----	----	----	----	----

所持品	
コネ: UGN幹部	
携帯電話	
カジュアル	
アクセサリ	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
調和者 (ハーモナイザー)	P	N		
小鳥遊 心愛	P 慈愛	N 不安		
Sロイス: 竜堂 鳴海	P 尽力	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 20    残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
斥力障壁	2	2	オート	視界	単体	自動	--	
効果: ダメージ-[1d+Lv*3]								
時の棺	★	10	オート	視界	単体	自動成功	100%	
効果: 判定を行う直前に使用する。その判定は失敗する。「難易度:自動成功」は妨害不可。1シナリオに1回								
カバードィフェンス	1	2	オート	至近	自身	自動成功	--	
効果: ダメージロールの直前に使用。カバリングを行う。このカバリングは行動済みならず行動済みでも行える。1メインプロセスに1回、1シナリオにLv回まで使用出来る。								
コズミックインフレーション	1	2	セットアップ	--	範囲 (選択)	--	ピュア	
効果: 組み合わせたエフェクトを「対象:範囲 (選択)」に変更する								
赤方偏移世界	3	2	セットアップ	視界	単体	--	--	
効果: そのR中【行動値】+[Lv*2]								
ディメジョンゲート	★	3	メジャー	至近	効果参照	--	--	
効果: 何処でもドアをつくれる								
偏差把握	★	--	メジャー	視界	シーン (選択)	--	--	
効果: セルフ発見器になる								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

【コンボデータ】

1、膨張する世界: コズミックインフレーション+赤方偏移世界  
 タイミング:セットアップ 命中:-- 攻撃力-- 浸食値:4 効果:「対象:範囲 (選択)」の相手に【行動値】+[Lv\*2]増強させる。  
 詳細:彼方の目が黒く、瞳孔が赤く変化する。すると選択された対象は身軽になり、重力から解放された様に機敏な動きが可能になる。

2、孤高なる犠牲: 孤独の魔眼+斥力障壁  
 タイミング:オート 命中:-- 攻撃力-- 浸食値:6 効果:対象単体のダメージを-[1d+Lv\*2]軽減させ、範囲の攻撃を自分一人に変える  
 詳細:これもまた、両目が黒く、瞳孔が赤く変化する。目の前に来ると思った、相手の攻撃が唐突に彼方の方に集まっている。そしてその攻撃の威力が、寸前で和らいだ。

【設定】

彼方は、普通な子だった。  
 8歳の時までは…そう、8歳の時である。  
 父がその時に死んだ、死因は事故死。  
 自動車とトラックの正面衝突だったらしい、遺体は無残な姿で、言葉を失ってしまった。  
 母は何も言っはくれなかった、彼方の身体を優しく抱きしめてはくれた  
 家に戻り、傷心に浸りながら自分の部屋に入り、ふと、机に置いてある手鏡を見てみた。